平成２２年度　第二学期　始業式　校長の話

平成２２年８月２６日（木）９：４５～

　みなさん、おはようございます。

　長いと思っていた夏休みも、あっという間に終わった感じがしますね。

　みんな、元気に登校していることを、まず喜びたいと思います。

　充実した夏休みでしたか。３年生は就職・進学の準備に真剣に取り組んだ夏だったと思います。また、部活動で全国大会や県大会に出場し、頑張った人。

練習や練習試合に一生懸命だった人。資格取得に熱心に取り組んだ人。それぞれが自分自身を成長させるべく、様々なことに取り組んだ夏だったと思います。

　・新体操、ハンドボール、ウエイトリフティング・・・全国高校総体

サッカー（１年生大会３位）

　・情報処理競技、囲碁、ロボット（県大会優勝→全国大会へ）

　・ボイラー、電気工事、溶接、危険物、ものづくり人材育成塾

さらに、今年の夏休みは、第３４回全国高等学校総合文化祭宮崎大会が８月１日～５日まで開催され、その準備や本番での活動で忙しかった人もいました。口蹄疫の関係で開催が心配された大会でしたが、宮崎県の高校生が、「感動と元気」を県内に全国に与えることができた素晴らしい大会でした。改めて、宮崎の高校生の底力を感じることができ、嬉しくもありました。

私は、美術の堀内先生と一緒に、専門外でありながら、美術・工芸部門の全国大会を担当するという一生に一度の、素晴らしい体験をさせてもらいました。

その体験の中で、みなさんにも紹介し、心掛けてほしいと思った二つのことを、これから話したいと思います。

その一つ目。「緊張感を味わう」、「前向きに取り組む」ことについて

８月２日（月）の１０：５０～１２：３３の間、秋篠宮同妃両殿下、佳子内親王殿下の御先導役を美術・工芸部門の展示会場である県立美術館で、務めさせていただきました。堀内先生は、もちろん、そのときのご説明役で、その大役を見事に果たされました。御先導は、美術・工芸部門の生徒実行委員長の宮崎北高校の鶴田さんと一緒にさせてもらいました。鶴田さんが、リハーサルのとき、「とても緊張する」と言っていました。そのときに、「当日は、お互いに頑張りましょう。」と、次のような話をしました。

（特に３年生は、就職・進学試験を目前に控えていることを思いながら、聴いてください。また、１・２年生は、資格取得の試験や新人大会等。）

　誰でも、緊張する場面に遭遇するときがあります。それが、自ら望んで、その場にいるときと、指名されてその場にいるときなど様々です。しかし、どんな場合でも、「緊張して当たり前」「緊張するほど、自分は一生懸命やろうとしている」「このような緊張感を味わえるのは、またとない、いい経験である」などと考え、「緊張感を楽しみ、一生懸命やろう」

　そして、このような場面では、常に、前向きに取り組むことが大切だよ。

という話をしました。みなさんも、これから将来、望むと望まないにかかわらず、また、自ら挑戦したり、さらには大役を任されたり、頑張らなければならない「緊張する」場面に、遭遇することがあると思います。そういうときに、後ろ向きになって、辞退したり、やる気を出さなかったり、極度に緊張しすぎたりしないで、経験できることに前向きに取り組んでいく姿勢をもってほしいと思います。「よだきい」ことでも前向きに取り組む姿勢を持ちましょう。

　※「佐賀のがばいばあちゃん」の言葉の中に「後ろ向きは歩きにくい。だから、前向きに歩こう」というのが、あるように。

　※「おもてなし（御先導）は、気持ちがこもっていればいいんだよ」と話し、

緊張感を味わいながらも、リラックスして臨んで、上手くいきました。

　二つ目は、「何事でも自分のことと受け止める吸収する」姿勢を持つ。

美術・工芸部門の講演・講評会で、講師の宮崎大学準教授の大泉先生が話されたことで、心に残った言葉です。それは、次のような内容でした。

　※全国の高校生の展示作品394点の中から、約40点を紹介、講評された後で。

＜作品を紹介されなかった人へのアドバイス＞より

・今、「自分とは関係ない」と思いながら話を聞いていた人は、残念ながら「観客」に回った方がいいと思います。

・美術の世界に限らず「情報を発信する側」に立ちたいのなら、何に対しても貪欲にアンテナを張っていないといけません。

・「自分にも当てはまる」と少しでも感じたら、自分に言われたアドバイスだと思ってください。

この話を聴いて、どう思いますか。よく、今日の始業式のような式のときや全校集会などにおいて、人の話を聴くときに、このような場面に自分がおかれることがあるのではありませんか。そのときに、どう思って、話を聴きますか。自分には、あまり関係ない話だから、真剣に聴かなくてもいいと思っていませんか。「自分とは関係ない」と思って、話を聴く人は、今以上の成長は望めないということだと思います。したがって、自分の目標を達成したり、夢を叶えることはできないということです。

自分自身を知ってほしい（自分自身の情報を発信したい）、自分をよく評価してほしい、自分自身を向上させたいなどと、日頃から考えている人は、常に、何事に対してもアンテナを張っていて、少しでも「自分に当てはまる」と感じたら、そのことを自分に対するアドバイスだと思って、取り組んでいってほしいというメッセージだと感じました。このことは、大人にも言えることです。

全国高等学校総合文化祭の経験を通して考えさせられた、「物事を前向きに考え、緊張感を楽しみながら取り組む」、「常にアンテナを張り、いろいろなアドバイスを素直に受け入れて、頑張っていく」という姿勢をみなさんも心掛けてほしいと思い、話しました。

就職試験・入学試験、体育大会、文化祭、授業公開など、様々なことに取り組む二学期です。「僅差の現実（大きさと大切さ）」を認識し、今話した二つの姿勢を意識して取り組み、充実した実りのある二学期としてください。

　＜僅差の現実＞・・・優勝するか否か。合格するか否か。

　　・大学入試・・・１点差の不合格→浪人　・資格取得（１点で不合格）

　　・新体操（0.1差）、ウエイト（４０ｇ差）、ハンドボール（１点差）

　　・就職試験・・・ペーパー試験、面接試験（服装容儀）